

ころばん体操出前講座活動報告(平成29年5月31日)

【講話】

- 1.「いつまでも自宅で暮らすために」地域包括支援センター保健師 久保小百合
- 2.「がんばりすぎない介護を応援します」
在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター 南新敦子

参加者の声

平成29年5月17日(水)中組公民館(参加者24名)

地域包括ケアシステムって...「良く分からんなあ...」

“ぽっくり”か“じっくり”どっちかって云われれば、「やっぱりポッキリ死にたいよ...」

出来るだけ自分の家で過ごして行きたいと思っています。どこで誰に介護されたいか...まだ実感はないけど、みんなで話はしていますよ。

「私も自分の親を自宅で介護して色々な介護サービスがあって助かりました。今日の話はその時の事を思いだして、よくわかりました。これから自分の番がくるかもしれないので、その時は相談したいと思いません。」

(まだ、実感が湧かないというご意見が多かったのですが、これからの参考になったと云われていました。

「認知症は早くに相談にいかんとね」と、皆さんでうなずきながら聞いて頂きました。

「まだまだ健康寿命を延ばします」とのご意見もありました。)

平成29年5月17日(木)下石野公民館(参加者14名)

「みんないつかは死ぬんだから100%の死亡率じゃんねえ」

「やっぱりポッキリがよか。じっくりは痛い気がする。」

こんな話は家族で良くしていますよ。

まだまだ元気でいたいと思っているから介護の事は実感がないなあ...

「目も、耳も悪くなって来て、妻は施設に入所している。息子たちがすぐ目の前に住んでいるから心配はしていないが、もう死んでもいいと思っている。」

(講話の後の感想では、自宅で最期まで生活していきたいと思われた方と、思うが不安との意見が半々でした。が、とても参考になったとの意見は多かったです。)



(中組公民館)



(下石野公民館)